

Japan Pentecostal Council News

特集：弟子化への展望

日本ペンテコステ協議会

事務局：日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部内

〒170-0003 東京都豊島区駒込 3-15-20 電話 / 03-3918-5935

「権勢によらず、能力によらず、わたしの靈によって」

ゼカリヤ書 四章 六節

プロテスタント日本宣教150周年を迎え、日本福音化のためのペンテコステの役割

日本ペンテコステ協議会 議長
内村 撒母耳

昨年11月のアッセンブリー教団の総会の折、『プロテスタント宣教150年』と記したとき、沖縄教区の代議員から、こんな発言がありました。「確かに1859年5月にリギンス師が長崎に、10月には神奈川にヘボン師、ブラウン師が来日している。しかし、それより先の1846年5月1日にバーナード・ベッテルハイム師が那覇に上陸しています。この事を忘れないでほしい。」と要望がありました。ですので、この紙面では、この事を理解した上でプロテスタント日本宣教150周年と云うことになります。(鎖国を解いたのが1859年、キリスト教の禁教の高札が除かれたのが1872年)



ペンテコステ信仰者による日本宣教は、20世紀初頭に始まったペンテコステ運動から10年経たないうちに日本に宣教師が来ています。この事は、今までにない宣教の力が聖霊の力によって推進されてきたと言って良いと思います。

更に時代の大きな変化、即ち日本の敗戦という未曾有な時を経験し、日本中心の考え方から、世界的視野が展かれてきたことがキリスト教界を大きく前進させてきました。

このような経過を経ていますが、今日的に「日本福音化のためのペンテコステの役割」を考えてみます。

1. 宣教の力が聖霊によって与えられています。

イエスキリストを救い主として信じる者は、罪赦され神の子となり、永遠の命が与えられる新生の経験を持ちます。更に聖霊のバプテスマにあずかることによって、使徒1章8節のように宣教の力を受けるようになります。この体験を通して、自分自身が恵みに満ち溢れ、喜びに満たされて大きく変わります。そして、「この素晴らしい恵みを多くの人々に伝えたい」と自然に思うような他者への愛が与えられます。この愛こそが、宣教の原動力となるのです。しかも、この体験は一部の限られた人だけでなく、多くの求める信仰者に与えられるものです。

2. このペンテコステの活動は使徒行伝の延長として考えられます。

この2000年間、イエス様の宣教は十字架の贖いの道が完成されてから、弟子たちに委ねられ、エルサレムのマルコの二階座敷で聖靈を受けた120人によって、推進されてきました。これが使徒行伝です。この聖靈による宣教が、末の時代といわれる20世紀に再び盛んになり全地球的拡大となりました。

現在ペンテコステの教会に使徒行伝的な教会、宣教が見られています。完結された聖書がありますが、使徒行伝が継続されていると云って過言ではありません。

私は祈りの度毎に、救われる者が起こる事、いやしや奇跡が起こること、聖靈が人々の心の中に自由に強力に働いて下さることを願っています。又、土曜日には、早天参加者と共に、会衆席に手をおいて、そこに座る人々のために、会堂全体が靈の空気で満ちているように祈っています。そこには人の努力、業、方法を超えた聖靈が主導権をとって下さることを信じています。

このような役割というより働きをしていますが、これから課題も無い訳ではありません。このようになれば、もっと素晴らしいペンテコステ信仰による教会形成が出来ると期待して、思い切って以下に記します。

A 指導者

指導者である教職が靈的に、知的に、経験的に学び続けて欲しいと願います。特に主の前に静まり深い靈性を主から受けてほしいと思います。深い祈りは豊かな祝福となると確信しています。

B 信徒聖書学校

信徒伝道者が起こされて、信徒が個人伝道に励み、レベルアップされるため、教会毎に信徒聖書学校が開かれて訓練され整えられると素晴らしいと思います。

C 献身者

最後ですが、全てを捧げて主に献身し、神学校にいく兄姉がもっともっと起こされていくことを期待しています。

以上の事をペンテコステ信仰が継続され、拡大していくために期待しています。

主がペンテコステの教会に役割を与え、又期待しておられます。

TPKFにおける弟子化の展望

単立ペンテコステ教会フェロシップ(TPKF)議長
中見 透

1. 伝道することが弟子訓練

宣教師が北欧、アメリカから日本宣教に来られ、関西、北陸、中部、関東に伝道を展開。現在のリーダーは熱心な伝道の実であり、宣教師から伝道スピリットを受け継いで教会形成をしている。まずは礼拝厳守、そして聖靈のバプテスマを受けること、ちからを受けたら路傍伝道、トラクト配布、日曜学校での司会とお話しの奉仕。かつては天幕伝道、今はゴスペルコンサート、



講演会、伝道会をすることにより、祈り、チラシ配布、救いの証をすることによって救靈への思いが培われている。また、チームワーク、交わりの大切さ等を教えられ、伝道することがそのまま弟子訓練になっている。

2. リーダーのレベルアップが弟子化に

毎年春に開催されるTPKF全国大会を教職者中心の大会とし4年前よりリーダーがまず刷新されてリーダーシップの重要性を理解し、明確なビジョンを持つことが教会員の弟子化につながりTPKF全体のレベルアップになるという視点を持ち、研鑽を積んできた。

2006年のTPKF全国大会で、仏教国スリランカで牧会、伝道をして80教会を開拓し、神学校を建て、国営TV放送のウィクリーレギュラー番組を担当しているティッサ師をメインスピーカーとして招いた。スリランカの伝道が北欧の宣教団体により指導されてきたが、今は独立して教会形成をしているという同じようなバックグランド、1%のクリスチャン人口、仏教的背景、という似た状況の中でどのように牧会、伝道をしているのかを学んだ。

リーダーはその国のリバイバルを明確なビジョンとして描き、どんなに難しい状況にあろうとも神は事をなさるお方と信じること、福音宣教は靈的戦いなので国の政治家、地域のため、親戚のために解放と祝福を祈ること、個々人の具体的必要のために祈ることを学ぶことができ、リーダーのビジョンが広げられた。

2007年の大会ではハガインスティチュートによる5日間の集中セミナーを受け、更なるリーダーシップの底上げがなされ、リーダーの意識が変革されつつある。

3. ユースの全国大会

リーダーの高齢化が進んでいるのは現実であり、次世代へのバトンタッチは確実になされていかなければならないのは事実である。今まででは関西、北陸中部、関東で若者の集まりがあつたが、昨年から全国大会を目指して、お互いの交流と励まし、日本のリバイバルを求めて日本の靈的夜明けを担えるようになろう、という機運が盛り上がりつつある。



「弟子化への展望」



日本アッセンブリー教団 南紀リバーサイドチャーチ 牧師
寺田 文雄

日本アッセンブリー教団としての取り組みとしては、3つのレベルでなされています。

第1は、教団レベルのものです。全教職を対象とするものとして「教職研修会」が挙げられます。近年は「宣教力アップ」をテーマにし、毎回200名を越える出席があります。また、伝道局の下にある4つの部・委員会で担当するものがあります。

- ① 国内伝道部は、「伝道研修会～牧会者リフレッシュ・カンファレンス」を毎年継続し、牧会者子弟化を図っています。任意参加ですが、開拓中及びアップ・ツー・デイトな教会形成を願う教職者が対象です。30～50人規模であり、親密な交わりと情報交換・ネットワーク形成の良い場です。さらに、教会アドバイザー制度を設け、人的資源を活用し教会形成と子弟化を図っています。希望教会に年1回、3年間アドバイザーを派遣する支援制度です。
- ② 海外伝道部では、毎年「体験ツアー」を企画し、次世代への子弟化の接点作りをしています。フィリピン、台湾、モンゴルなどへのツアーを実施、今秋はカンボジアへの計画があります。
- ③ ろう者伝道部では、長年ろう者信徒聖書学校やトレーニングスクールを開催し、子弟化への良い結実を見ています。
- ④ 青少年伝道委員会では、米国AGのカイアルファ(大学生伝道組織)の宣教師やワーカーとの協力により、大学生伝道の拡大と大学生への子弟化を推進しています。

第2は、教区レベルでの子弟化です。北海道から沖縄にいたる11の教区活動を通してなされるものです。それぞれの教区において、多彩な特色を持つ子弟化が進められています。(紙面の関係で今回は割愛させて頂きます。)

第3は、教会レベルのものです。地方教会の子弟化の一例として南紀での取り組みを紹介させて頂きます。礼拝出席が80名前後で停滞に突入した8年前に、私達はセル教会へと転換を始めました。現在は「伝道と育成リーダーの戦略的子弟化」を特徴とするペンテコステ信仰に立つセル教会を目指しています。3歩前進2歩後退的取り組みの中で昨年は数度100名礼拝突破の恵みが与えられ、年平均10名の受洗者が与えられる宣教的体質へとシフトされました。セルの特質としては、以下のものが挙げられると思われます。

- ① 愛と人間関係をベースにした教会形成
- ② 聖書のモデルに従い、マンツーマンのコーチングによる育成関係を重視。教会員をSP(靈的親)として育成、伝道牧会における信徒パワーを積極的に活用し、牧師依存体質から脱却。育成テキストを用いながら一人一人へのケアと育成における質的レベルアップを図り、全信徒伝道牧会のスピリットと教会文化を醸成し、リーダーシップの強化・質的数的向上を図る。

③ 靈的家族関係を持つセル環境の導入により、聖書知識と共に、互いを知り品性と信仰を磨きあいつつ靈的親の心を成長させ、かつ実際的ミニストリーとリーダーシップのスキル向上させ、バランスのとれた成長を図る。

④リーダーの弟子化と戦略的育成を図り、チームによる強固な教会構造を確立

⑤宣教の推進力である力強い祈りと、とりなしのバックアップを保つ、などです。

最後に私見を以下にまとめてみます。

①教会を若返らせることが急務であり、次世代への緊急かつ集中的な弟子化方策の確立とそれを推進する人材の手当てと祈り

②聖書にみるマンツーマンの効果的な弟子化コーチングの再評価

③地方教会のDNAを受け継ぐ次代のリーダー群を育成する教会内のトレーニング(育成とリーダー訓練)構造の強化

④聖靈に満たされた宣教的

な靈的風土と体質への質的

蘇生を挙げる事ができます。

地方教会自身が聖靈によつ

て弟子化への積極的なビ

ジョンとイニシアティブへと

導かれることが大切な鍵で

ある、と考えています。

(以上です)



新たな弟子化の時代に向けて

日本フォースクエア福音教団
佐藤 成紀



私たち日本フォースクエア福音教団は、2009年4月より新しい時代を迎えます。17年間の長きにわたり代表を務めて来られた比嘉幹房師に代わり、小職がその大任を引き継ぐはこびとなりました。神様の新しいみわざを期待するとともに、たいへんな重責を担うことにして引き締まる思いがいたします。

ご存知の通り、フォースクエアの働きは米国におけるペンテコステ運動の最中、女性伝道者として活躍したエイミー・センプル・マクファーソン女史から始まりました。ロサンゼルスを本拠地とした同女史は、当初から「超教派の世界宣教」というビジョンを掲げ、米国内のみならず世界各国

地に教会が生み出されて行きました。日本に初めて宣教師が遣わされたのは1950年。関東を皮切りに沖縄、北海道その他、日本各地にフォースクエアの四重の福音が伝えられることになります。

日本人の手に日本の教団運営がゆだねられたのは、1979年です。日本人の初代理事長は増井誠太師で、1992年には比嘉幹房師が第2代理事長（のち總理）に選出されました。新たに開拓される教会が次第に増加し、教職者も日本人、米国人以外にフィリピンやブラジル、韓国等からも加えられています。

日本宣教50周年を迎えた2000年には、新たな内規を採択し、さらなる宣教への基盤をしっかりと固め、2006年には包括宗教法人の認証も受けることができました。現在は、北海道、東北、関東、中部、関西、九州、沖縄の各地にて日本語、英語、ポルトガル語、韓国語などによる宣教の働きが進められ、今年はハワイにも宣教師を派遣する予定になっています。神様が私たちの地境を広げ続けて下さっていることを感謝します。

比嘉師を通して、神様は私たちに大きなビジョンを与えて下さいました。日本全国を福音宣教でおおうというビジョンです。主要都市圏にある教会が開拓センターとなり、新たな教会を生み出し、すでにある教会とのネットワークを通して日本全国に福音が伝えられていくというイメージです。私たちはこの幻が神様からのものと信じ、日本各地に教会を増殖し、弟子化を進めていきたいと祈り始めています。

2006年には、新しい教団戦略を採択しました。「福音宣教と弟子化に重点を置き、聖靈に満たされた教会を建て上げる」というのが、その戦略の土台をなす理念の一つです。聖靈によって働き人が導かれるよう権限を委譲し、また海外からの協力をも仰ぎ、関東・中部・関西等の人口集中地域に教会開拓の力を集中していく方針です。また、一般社会の各分野において影響力をもつリーダーたちを弟子化し、新たな宣教地拡大を目指します。

弟子化の具体的なとりくみやプログラムなどは、まだまだこれからです。今年度の教団大会のテーマは、「祈りと宣教」です。まず宣教のための祈りをもって、新たな弟子づくりの働きを始めていく予定です。使徒たちの時代と同様、聖靈の力強い満たしにより、神のことばを大胆に語っていきたいと願っています。



神の家族キリスト教会の弟子化推進の展望とプログラムとは‥



神の家族キリスト教会 クリスチャンライフ 水野 明廣

私たち神の家族キリスト教会の今年の方針は、「すべてのことを、福音のために‥」として、その主題聖句を、コリント人への手紙第一9章22-23節としております。

イエス・キリストの御心は、マタイの福音書28章19節において述べられているように、人々をキリストの弟子とすることであり、そのためにはマタイの福音書11章38節にも述べられているように、主の収穫のための働き人を送ってくださるように祈る事でもあります。

神の家族の群れとなっていく発端は、「誰でも生かされ、用いられる」と言う主からの励ましを受けたことからでした。そこで、開拓当初から、主イエスを救い主と信じる人々を主の働き人になっていただくために、家の教会を持つことと、信徒牧士の会として定期的な学び会をしてきました。更に名古屋福音聖書学校を開いて主のための熟練した働き人養成機関を育ててきました。これが今までの牧師の養成の場ともなっております。そのおかげで、若い世代の働き人も次々と起こされてきています。

主の働き人を育てるために大切にしていることは、次の七つの要点です。

- 1、すべての人々の中に、尊敬するべき良いものが、主から与えられている。
- 2、主の務めをするためには、務めをする人々と受ける人々との良い関係が必要である。眞実な良い関係は、時間と、危機を乗り越えて育てられる。
- 3、主の務めは、壊れた人生を回復させ、主の務めにつかせるために捧げられる。
- 4、神の御国で偉大な人は、どんな小さなこと、ささいなことにも、喜んで仕えられるか否かによつて自分を吟味する。
- 5、人は何も持たないでこの世に生まれた。そして、主から借りたもので、どれほど主のために、どれほど主の栄光にそれらが用いられたかが大切なことである。
- 6、引き上げられる‥‥という点は主に属することで、へりくだつて、主の賜物をどのように管理したかが問われている。
- 7、すべての人々は、それぞれ受けた経験、学び、訓練等々‥‥をどれほど主の誉れとして主に返しつつ、人々を建て上げるために役立てるのかが問われている。

以上



「救いに至る5つの段階紹介」 イエス・キリスト福音の群れ

いわきホームチャペル 牧師
金本 友孝

現実を認識するということを放棄しない限り、いかに信仰的に前向きに考えようとも、「日本での伝道は、決して簡単なものではない」ということは認めざるを得ないでしょう。この文章を書きながら、私も、東北の小さな町で開拓伝道に携わる者として、それを実感しています。

しかし、それは、あくまでも、現時点においてクリスチヤンになる人が少ない、という意味であり、決して、伝道そのものは難しいものではないことを私達は知っています。そうですが、ただ、福音を伝えればいいのです。

それでも、「伝道は難しい」と感じているクリスチヤンは少なくないかもしれません。

では、一信徒にとっての、「福音を伝えることの難しさ」とは何でしょう。恥ずかしさでしょうか。いいえ、無理して路傍で叫ぶ必要はありません。迫害があるからでしょうか。いいえ、ほとんどありません。問題は、福音の全体像、すなわち、「救いの概観」を説明出来ない(把握していない)、ということではないか、と私は考えました。勿論、福音を信じてはいるけれども、未信者に対して的確に語ることが出来ない(未信者からの疑問に答えることが出来ない)、それが、「伝道は難しい」と感じる原因なのではないか、と思うのです。

ならば、ということで製作したのが『救いに至る5つの段階』という小冊子です。これは、未信者が、これを読むだけで疑問が解かれ、信仰を持つことが出来るように(そんなに上手くいくか………? と思いつつも、そうなれば)と願って製作しました。これを手渡して、読んでもらうだけで伝道が出来る、「伝道は難しくない」ということを体験できるツールなのです。

勿論、そのような趣旨のものは、これまでにも沢山あったと思いますが、この小冊子の特徴は、まず、薄手のトラクトのように読んでもらいやすくする為に出来る限り簡潔に、同時に、聖書の学びのように福音の充分な説明を、という相反する二つの要求を満たそうとしているところです。

そして、もう一つの特徴は、こんな小冊子なんかに頼らなくても、信徒が自分の口で福音を伝えることが出来るようになることを助ける、ということです。つまり、クリスチヤンの「分かってるようで、分かってない」を解消する為のテキストなのです。大胆に言えば、これを暗記しておけば、いつでもどこでも誰にでも福音を語り、疑問に答えることが出来る、ということです。すでに、多くの人に読まれ、学ばれ、「とても分かりやすい」と喜ばれ、受洗者も起こされていますが、更に、この小冊子が沢山の人の手に渡り、福音が理解されて、やがて、この小冊子が、ついには無用なものとなれば、と願っています。(今、不要とされるのは不幸です。是非、お用い下さい)



日本チャーチオブゴッド教団 弟子化推進の展望とプログラム

東京ライトハウスチャーチ 牧師
八束 選也

「それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。(マタイ28章19節)」という主イエス・キリストのご命令を受けていける者として、次世代を担う弟子を訓練することは教会にとっての最重要課題です。教団創設初期の宣教師達も、「弟子訓練こそ日本宣教の鍵」と信じ、横浜市旭区に教団の横浜聖書学院を設立し、多くの働き人を育成しました。しかし、1977年、諸般の事情により教団の聖書学院は閉鎖となり、その後、弟子訓練は各教会に委ねられ、それぞれの教会で牧師の指導の下で弟子訓練がなされ、また、多くの働き人が他教団の聖書学校や教団他国の神学校へ学びに行きました。

時を経て2002年、教団の本部教会である東京ライトハウスチャーチが献堂されたとき、「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫の主に、働き手を送ってくださるように祈りなさい。(マタイ9章37~38節)」との御言葉から、教団監督である八束和心先生に「日本チャーチオブゴッド教団ハーベスト&トレーニングセンター」というビジョンが与えられ、建物に記銘されました。

その後、2007年6月にシンガポールで行われた教団のアジアリーダーシップセミナーに参加した数名の教職のうちに、次世代のリーダー育成の重要さと、そのために一人ひとりがリーダーシップを発揮することが重要であることが示されました。そして、セミナーに参加した教職を中心に、日本でも教団単位で次世代を担う弟子を訓練していくという機運が盛り上りました。現在、「(仮称)日本チャーチオブゴッド教団ハーベスト&トレーニングセンタープロジェクト」を立ち上げ、数名の若手教職が月に2~3回程度集まり、弟子訓練と次世代リーダー育成について祈り合い、話し合っています。

プロジェクトでは、各教会で用いる①受洗前後基本教理コース、②クリスチヤンライフコース、③リーダーシップコースと、その後の教団としての聖書学校を想定しています。現在は、③リーダーシップコースのテキストを分担して執筆しています。これらが形になるのは、まだ少し先ですが、これらのテキストが完成し、各教会で牧師の指導の下で、弟子訓練が行われるビジョンを持って前進しています。

また、東京ライトハウスチャーチでは、2005年より教会内聖書学校をスタートし、ISOM (International School of Ministry) のビデオ講義を中心に、不足部分を独自講義で補いながら学びを進めています。必要な基本教理と実践面での教えと共に、教会を建て上げるチャーチビルダーとしての基本姿勢を打ち込んでいます。キリストの栄光の教会建設を目指し、各教会で牧師に与えられたビジョンに向かって、弟子訓練と聖書教育が成されていくことを願っています。現在では、この教会内聖書学校の独自講義で教団他教会の教職にも教鞭を執っていただき、将来の教団の聖書学校の方向性を探っています。



弟子訓練で大切なのは、「次世代はもっと優れた働きをする」という確信だと思います。私自身、年齢を重ねる度に、教勢を見て、若者を見て、「どうして、昔の方が今より良かったのか。」と思ってしまう愚かな者です(伝道者の書7章10節)。しかし、バプテスマのヨハネはイエス様を示し「あの方は盛んになり、私は衰えなければなりません。」と言いました。また、イエス様は弟子たちに対して、「わたしを信じる者は、わたしの行うわざを行い、またそれよりもさらに大きなわざを行います。」と語られました。そして、現在、キリストの弟子たちによる福音宣教の働きは全世界へと拡大しています。ですから、次の世代はもっと優れた働きをすると常に教え、励まし続けていきたいと願っています。



弟子化推進の展望とプログラム（シオン宣教団）

シオン宣教団 伝道師
碇 いづみ

プログラムはC.C.C(日本キャンパス・クルセード・フォー・クリスト)のテキストを用いています。

教会に来はじめた方々に、まず簡単な個人の「救いの証し」と「福音」を語り、その結果、すぐ受け入れた方は、「新しい人生のはじまり」(C.C.C)のテキストで信仰の基礎を学びます。内容は「新しく信じしたことによりどんなものにされたのか?」「祈り」「聖書の学び方」「聖霊」「従順」など6課に渡って学びます。

受け入れられなかつた方には“豊かな人生シリーズ”的「1.イエスの独自性」というテキストからノンクリスチャンの方でもイエスはどういう方だったのか、いろいろな角度から学び、このテキストを通して、救いに導かれるように促します。「新しい人生」のテキストが終わった方も豊かな人生シリーズに入って、単元1から単元11まで学びます。薄い冊子で一冊大体6課ぐらい

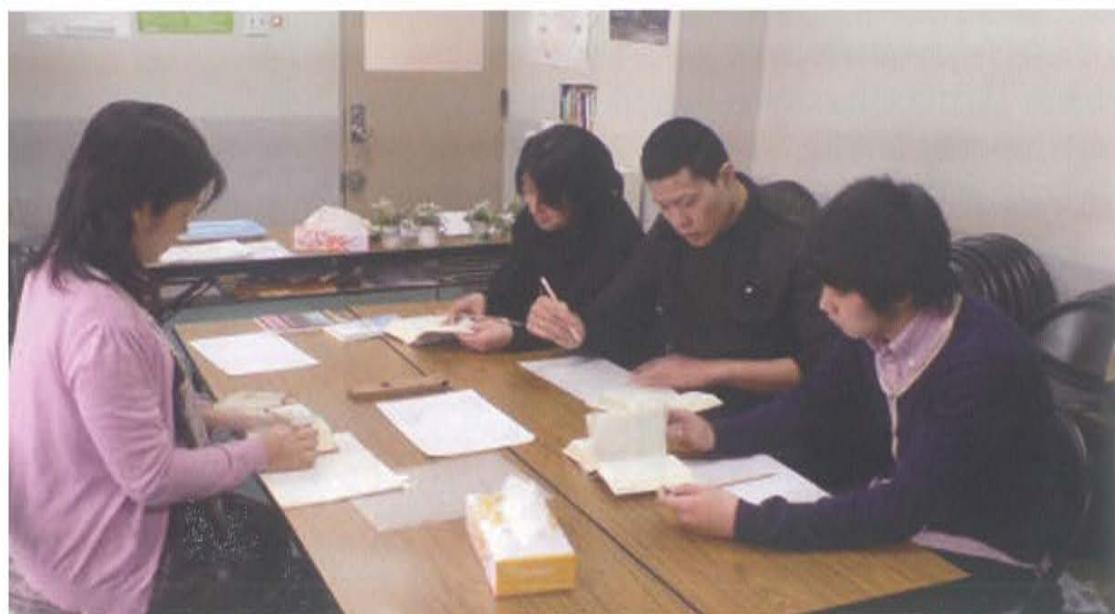


です。2からのテキストは「クリスチャンの冒険」、3「豊かな生活」、4「聖霊」、5「祈り」、6「聖書」、7「服従」、8「伝道」、9「管理」、10「旧約聖書ハイライト」、11「新約聖書ハイライト」を、1～2年かけて学んでいきます。救いを決心できたら3ヶ月ほどで受洗を勧めます。

学びは救いの前後3年は続けて、次の人に導けるまでしっかりした働き人を目指します。なぜ3年かというと、魂は救われますが今まで全く違う価値観と生活の中にいた人ですから信仰生活がしっかり神中心になるまで、「時間」と「助け」が必要だからです。また救われた直後が一番サタンに狙われやすく、「様々な誘惑」や「家族の反対」、「悪習慣の断ち切り」など祈りと守りが必要だからです。テキストには答えがついていますので、誰でもリードできるようになっていて用いやすいのです。また、ただの知識的な学びだけでなくリーダーから信仰生活の全てを学び、弟子となって次の弟子を生み出していくことが目的です。

学びは週1回がベストで、週の半ばに1時間か1時間半くらい時間をとります。それは、いつも近況をつかんで祈り合い深い靈的な交わりを持つ為です。御言葉に沿って進むのでただの世間話に終わらず、深い靈的交わりができます。また御言葉をたくさん読むことを通して、的外れだったところが自然と修正されていきます。学びを通してなかなか言えない深い部分や今までの経験も分かち合うことができ深く心を開きあい、信頼しあう大切な交わりとなります。決して勉強という感じではなく、リードするものにとってもとてもかけがえのない恵み溢れる時となります。

現在は開拓中なのでたくさんのグループを生み出すところまではいっていませんが、教会員全員で月1回の学びを通して、それぞれの信仰状態や全員で学ぶことで一致や恵みも与えられ、回を増すごとに一人一人の靈的成長を伺えています。またその中の大学生の男女一人ずつが、1年を経て学びを受ける側から導き手としてリードし始めるようにしました。彼らは「学びを受ける時と比べて、リードする時の方が、恵みが溢れた」と証ししています。



弟子化推進の展望とプログラム



日本ネクスト・タウンズ・ミッション 代表
三坂 正治

1: 牧師子弟に油を注ぐ

福音宣教と牧会に生涯を捧げておられる牧師家庭に生まれ育った子弟方は、幼い時から聖書に親しみ、祈りと贊美の中で、多くの学びと訓練を必然的に受けて育っておられます。又、背負わされた負い目と葛藤を味わってもいます。そんな中から、2世、3世の聖職者が出来る事は素晴らしい事です。しかし、聖職者としてではなく、社会的な仕事に従事していく方もあります。そのような道を歩まれる子弟方の思いの中に、聖職の道に帰るべきではないかと、神からの促しを感じている方々がおられると思います。既に教会では良き奉仕を忠実に熱心にしておられることでしょう。

ネクスト・タウンズ・ミッションの責任役員会がさる3月初旬に持たれた際、「牧師子弟に油を注ごう」ではないかという話題が盛り上りました。

耕作に精を出していたエリシャのそばを通りかかったエリヤは、自分の外套を彼の肩にかけました。サムエルは、角に油を携えて、エッサイの家を訪問し、8人兄弟の末っ子ダビデに油を注ぎました。油注ぎはダビデに絶大なる感動をもたらして、激しい力が臨みました。やがて、彼は軍事的にも政治的にも福祉的にもイスラエルを強い国家に建設しました。さらに、贊美を中心とした宗教行事としての礼拝形態をも確立させました。そして、近隣諸国から講和を求めてこられるほどの偉大な王となり、イスラエルを導く器になりました。エリシャはエリヤの2倍のわざを行う器に変えられました。

今年の秋の後期牧師修養会に牧師子弟を招待し、油注ぎの祝福の時を持つことにしようとといった方向で検討中です。日本宣教の次世代を担う為に、子弟方の中から多くの器が輩出されるべく、目覚めの時を期待したいものです。

2: クリストチャンの子弟に油を注ぐ

クリスチヤンホームに生まれ育つ子供たちは、胎内にいる時から、教会のふいんきに馴染んで開放的に育っています。幼い時から聖書に親しみ、信仰的、靈的な環境で育っています。主を愛する生涯を貫いてくれるように祈られ、心の深みに神観が確立されているので、世相の風が吹き荒れても、信仰が損なわれることはありません。それは一朝一夕になるのではなく、忠実に教会生活を行い、



主によって育てられていくからなのです。

教会では、成長の課程において入学、進学、就職、結婚、出産など、機会ある毎に祝福の祈りをします。家庭では両親の絶え間ない祈りがあります。教会学校では乳幼児クラスからスタートし、小学科、中学科のクラスで学びます。教会学校の先生方のとりなしの祈りがあります。中学生になると「ダビデのオーケストラ」に入り、毎月、礼拝後に練習があります。ダビデのように楽器をもって心から主を愛し、主をほめたたえるのです。春には学生キャンプがあります。ここでも楽器の練習があります。早天祈祷や聖会のメッセージで恵まれるだけでなく、聖靈を求める時があります。中高生、大学生が色々な奉仕をしながら、主に頼ること、さらに聖靈の油注ぎによる奉仕の素晴らしさを体験します。

若者には聖歌隊や種々の奉仕の場があります。毎週忠実に練習に参加し、靈と真による礼拝者として成長していきます。夏のユースキャンプは学生と青年、若い家族などが参加します。そこでも益々主ご自身を求めて、信仰が強くされていきます。このような群れに、油注ぎの祈りの時を設けることによって、良き働き人となる器が輩出されることを期待したいものです。



聖靈に満たされて前進を！



日本ペンテコステ教団
榮 義之

中国クリスチヤンが10パーセントを越え、共産党员の数を上回る増加を見せていると韓国の新聞は報道していました。

日本プロテstant宣教150周年の年、生駒聖書学院は創立80周年を迎える、日本ペンテコステ教団も愛する諸教団とともに、日本の福音化のために聖靈の力に満たされ、ともに前進したく決意しています。

第一に、聖靈に満たされ異言を語る聖靈のバプテスマの体験を持つ信徒の増加が、使徒の働きの範のよう增加することを念願にしています。

人々はこれを聞いて心を刺され、ペテロとほかの使徒たちに、「兄弟たち。私たちは どうしたらよいでしょうか」と言った。そこでペテロは彼らに答えた。「悔い改めなさい。そして、それぞれ罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマを受けなさい。そうすれば、賜物として聖靈を受けるでしょう。(使徒 2:37-38)

徹底した聖書の学びと実際的訓練を通して、救いの確信を持ち聖靈のバプテスマ体験を信仰の初期に導きます。それは悔い改めの徹底から信じることへの確信となります。

第二に、聖靈に満たされた祈りと、具体的な答えを確信させる祈りに導きます。イエス・キリスト



トの名によって祈ります。アーメン。ありがとうございました。

答えられました。与えられました。すべての事に感謝しますとの告白により、祈りは具体的に答えられ徹底したものとなります。

第三に、あなたの信仰と告白があなたを救ったという徹底した信仰告白を養い育てます。クリスチヤンホームが3世代目、四世代目になるので青年会活動や結婚指導なども考えています。

第四に、生駒聖書学院への献身入学により、次の世代を背負う働き人が養成され、若い世代へのバトンタッチと福音の前進を期待します。

私は心から神様をたたえます。今までにいただいた祝福を、決して忘れません。神様は私の罪をみな赦し、病気を治してくださいます。地獄行きの身を身受けし、恵みとやさしい思いやりで包んでくださいます。私の一生は祝福でおおわれ、驚のように若返ります。(詩篇103:1-5)

弟子化への展望

日本オープンバイブル教団 代表
菅原 亘



私たちの教団では、各ローカルチャーチ毎の自主性を認めております。教団主導の形で弟子化プログラムを採用してはおりません。しかし、教会形成における弟子化教育の重要性は、意義を説く必要もないほどに常識化している概念です。実際的には何をすればよいか、どのプログラムが適当なのか、どのテキストが良いのかと迷っておられる指導者も多いのではないかと思います。気持ちはあっても実現化していないか或いは弟子化プログラムにチャレンジしたが途中で挫折してしまった、というケースもあるでしょう。

現在、私が指導している神戸キリスト栄光教会では長年これといった弟子化プログラムを導入したことはありませんでした。礼拝メッセージで「信仰生活の基本」というタイトルで2年サイクルで基本的なメッセージを語ることにしています。また、私の著書の「クリスチヤンライフテキストブック」を採用して初步的な学びを洗礼者たちに行っております。

一年半前からは本格的な弟子養育のために、韓国オンヌリ教会が採用している「一対一弟子養育」プログラムを導入しています。これは1回2時間の学びを16週間かけて終了するものです。オンヌリ教会がこの弟子養育プログラムを開発し導入しました。これは現在のオンヌリ教会の土台となっております。聖書の学びを土台とし、聖句の暗唱、QT (Quiet Time), みことばの前に静まる時を持つ訓練が必要です。これを行う場合は同姓同士が絶対基本です。そこでは深い信頼が生まれてきます。2時間を16週間交わるのですから深い信頼が生まれるのは当然

です。1週間に1度養育者(訓練を受けた指導する信徒または教職者)と同伴者(訓練を受ける信徒のこと)が一対一養育テキストに従って学ぶのです。そこでは個人的な証や分ち合いがあるので、同姓でなければいけません。神戸キリスト栄光教会では、2008年度から実施しており、20名近い同伴者がこのプログラムを体験しています。感激や感動が起こっており、その評価は高いものとなっております。2009年度も同伴者の希望者にDVDをみてもらい、その理念を知り、学びを行い6月からの準備をしています。このプログラムを拡大するためには養育者の養成が鍵となります。現在6名の養育者がおりますが、彼らは1週間で3~4人ほど同伴者を受け入れることができます。現在、毎週水曜日に大阪オンヌリ教会の牧師に来て頂き、養育者を育てるセミナーを開催しています。これは信徒による養育者を育てるためです。このセミナーにより養育者が10名以上生まれたら、後は結構なスピードで拡大すると思います。養育者を多く養成することが鍵です。養育者は学びを通して何度も同伴者に対峙しますので、必然的に自らも靈的に成長し、信徒の中心として活躍します。

魂を養育する楽しみを自ら体験しますし、QTを通じて個人的に神様との関係を深めていきます。とても優れた養育プログラムだと思います。

教団としての統一化された弟子養育プログラムはありませんが、それぞれに優れたプログラムを用いていくことを願っております。



日本ペンテコステ協議会総会雑感

日本ペンテコステ協議会 書記
永井 信義

2008年11月25日(火)午後1時より、8教団から12名が出席して、日本ペンテコステ協議会総会が、日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事室を会場に開催されました。

まず、中見透副議長によりデボーションの時が導かれ、ルカの福音書15章25~32節から「長男の三つの危険」(比較の危険、律法主義化の危険、無知の危険)をテーマに聞くことができました。いつも短い時間ではありますが、みことばから語られる示唆とチャレンジに富むメッセージに心から感謝します。

出席者の紹介、前回の議事録の承認、会計による報告の後、次のような議題が取り上げられました。日本プロテスタント宣教150周年記念大会(2009年7月8, 9日 横浜)、プロテスタント宣教150周年フェスティバル(2009年10月12, 13日 川口)へ、協議会の余剰金から、それぞれに50万円(計100万円)を献金すること、また、協議会加盟教団・グループにこのための献金を募ることが提案



れました。特に日本ペンテコステ親交会(事務局:森本師)、日本リバイバル同盟(事務局:大久保師)、福音宣教協力会(事務局:大久保師)、関東宣教協力会(事務局:中見師)、ハーベスト・フェローシップ(事務局:向井師)、日本基督教団聖靈刷新協議会(事務局:額田師)とは、JPC関連の情報など連絡することが確認されました。これらのグループとのネットワークが強化され、交わりだけではなく、さまざまな形での協力が誕生することを心から願います。

さらに、日本ペンテコステ協議会研修会の日程、プログラムの内容、及び、総会の日程が以下のとおりに決定されました。ぜひ、ご参加ください!

研修会

日 時:2009年6月2日(火)11:00~16:00

場 所:日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団神学校チャペル

会 費:一人2,000円

プログラム:

11:00~12:00 礼拝 司会:内村撒母耳師

説 教:菊山和夫師

12:00~13:30 昼食

13:30~16:00 講演 テーマ:

「日本のペンテコステ・グループの未来像」

司 会:中見透師

講 師:水野明廣師(神の家族キリスト教会)(講演90分、Q&A45分)

総 会

日 時:2009年11月24日(火)13:00~16:00

場 所:日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団理事会

(文責:日本ペンテコステ協議会書記 永井信義)

日本ペンテコステ協議会規約

1) 本会は、名称を『日本ペンテコステ協議会』(Japan Pentecostal Council 略称JPC)とする。

2) 事務局

本協議会の事務局を日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団本部に置く。

3) 目的

本協議会の目的は、日本におけるペンテコステ信仰の健全な成長と発展を促進するために、ペンテコステの教団及び教団に準ずるグループの指導者・教職者間における交流を深め、情報交換及び相互理解を図り、教職研修を行うことにある。

4) 信仰宣言

本協議会の構成員は、以下の信仰宣言を告白するものとする。

1. わたしたちは、聖書が靈感された、唯一の誤りのない権威ある神の言葉であることを信じる。

2. わたしたちは、父と子と聖霊の三位において永遠に存在される唯一の神を信じる。
3. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストの神性、処女降誕、罪のない生涯、奇跡、十字架の血による代償的贖罪的犠牲、肉体をもっての復活、父の右の座への高挙、また、力と栄光の中での再臨を信じる。
4. わたしたちは、失われた罪人のためには、みことばと聖霊による新生が不可欠であると信じる。
5. わたしたちは、異言の証拠を伴う聖霊のバプテスマを信じる。
6. わたしたちは、聖霊の今日的働きによる肉体の癒し、および種々の聖霊の賜物を信じる。
7. わたしたちは、聖霊の内在によって清い敬虔な生活が可能となることを信じる。
8. わたしたちは、わたしたちの主イエス・キリストにおける信者の靈的一致を信じる。
9. わたしたちは、聖徒の復活、失われた者の審判、新天新地を信じる。

5)活動

定期的に会議を開催し、各教団及びグループの指導者・教職者間の交流、意見・情報の交換、研修その他必要な活動を行う。広報誌と機関誌を発行する。

6)総会

本協議会は最高議決機関として総会を置く。総会は、加盟教団にそれぞれの教会数に応じて割り当てられた数の代議員によって構成する。

50教会以下	代議員1名
51～100教会	代議員2名
101教会以上	代議員3名

7)役員

本協議会に議長、副議長、書記、会計を置き、その任期を3年とする。役員会は議長によって収集され、定期的に開催する。

8)経費

本協議会の経費は、加入団体の負担とする。

9)附則

本規約は、1998年5月29日より実施する。この規約の変更は総会の議決を経て実施する。また、2003年3月25日に改正された。

日本ペンテコステ協議会 会計報告

2007年11月1日～2008年10月31日

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
負担金 ①	430,000	総 会	7,420
総会会費	12,000	役員会	61,285
研修会 会費	93,000	研 修 会	148,655
雑 収 入	2,529	宣教150年準備(委)	21,160
		PWF 負担金	50,530
		新聞広告 ②	35,700
		事務諸費	20,256
小 計	537,529	小 計	345,006
前年度繰越金	984,406	現在残高	1,176,929
合 計	1,521,935	合 計	1,521,935

① 日本オープンバイブル教団	60,000 (2年分)
神の家族キリスト教会	30,000
イエス・キリスト福音の群れ	20,000
単立ペンテコステ教会フェローシップ	40,000
日本チャーチ・オブ・ゴッド教団	50,000
日本ペンテコステ教団	30,000
日本フォースクエア福音教団	20,000
シオン宣教団	30,000
日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団	150,000

② クリスチャン新聞:クリスマス特集	35,700
--------------------	--------

会計 船津 行雄

日本ペンテコステ協議会 加盟団体一覧 (各教団代表は、2009年 5月現在)

●日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団

理事長 内村 撒母耳

連絡先 日本AOG教団本部 ☎170-0003 東京都豊島区駒込3-15-20
TEL. 03-3918-5935 FAX. 03-3918-0474

●日本ネクストタウンズ・ミッション

代表 三坂 正治

連絡先 松阪キリスト福音教会 ☎515-0812 三重県松阪市船江町452
(藤田 光康 牧師) TEL&FAX. 0598-23-9648

●単立ペンテコステ教会フェローシップ

代表 中見 透

連絡先 御殿場純福音教会 ☎412-0024 静岡県御殿場市東山711-24
TEL. 0550-82-2872 FAX. 0550-82-7233

●日本オープンバイブル教団

代表 菅原 亘

連絡先 神戸キリスト栄光教会 ☎653-0845 兵庫県神戸市長田区戸崎通3-9-12
TEL. 078-612-5511 FAX. 078-621-5513

●シオン宣教団

代表 松本 光弘

連絡先 松江福音教会 ☎690-0001 島根県松江市東朝日町206-4
TEL&FAX. 0852-31-9368

●イエス・キリスト福音の群

代表 永井 信義

連絡先 東北中央教会 ☎981-3604 宮城県黒川群大衡村ゴスペルタウン
TEL. 022-345-2991 FAX. 022-345-2992

●日本ペンテコステ教団

代表 榎 義之

連絡先 生駒聖書学院 ☎630-0243 奈良県生駒市俵口町951
TEL&FAX. 0743-74-7622

●神の家族キリスト教会

代表 水野 明廣

連絡先 クリスチャンライフ ☎464-0094 愛知県名古屋市千種区赤坂町4-64
TEL. 052-721-7831 FAX. 052-721-7625

●日本フォースクエア福音教団

総理 佐藤 成紀

連絡先 ホープチャペル所沢 ☎359-1125 埼玉県所沢市南住吉10-8
TEL&FAX. 042-922-7716

●日本チャーチ オブ ゴッド教団

監督 八束 和心

連絡先 東京ライトハウスチャーチ ☎146-0093 東京都大田区矢口2-1-18
TEL. 03-3758-1625 FAX. 03-3758-1647

編集後記

J P C 日本ニュース第6号は、各教団での「弟子化の展望」について原稿を寄せていただきました。ご協力いただきました教団の諸先生方に、心より御礼申し上げます。
皆様の上に主の祝福が豊かにありますよう、お祈りいたします。

編集担当